

音楽科学習指導案

対 象 第4学年〇組
 会 場 4 階 音 楽 室
 授業者 指導教諭 金田 美奈子

1 題材名 せんりつの特ちょうを感じ取ろう（小学生の音楽4：教育芸術社）

2 題材の目標

- (1) 旋律の特徴や反復と曲想やその変化との関わりについて気付く。
- (2) 旋律の特徴や反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことに関わりについて考えるとともに、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。
- (3) 旋律の特徴や反復と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

3 指導事項との関連

B 鑑賞(1)ア イ [共通事項] (1)ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」「反復」)

4 題材の評価規準

| 知識・技能(知・技) | 思考・判断・表現(思) | 主体的に学習に取り組む態度(態) |
|--|--|---|
| <p>知①曲想及びその変化と旋律の特徴や反復との関わりについて気付いている。</p> | <p>思①旋律の特徴や反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことに関わりについて考えている。</p> <p>思②旋律の特徴や反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことに関わりについて考えるとともに、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。</p> | <p>態①旋律の特徴や反復と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

5 児童の実態と題材設定の理由

(児童の実態：省略)

今回の題材では、第1時の導入で「自分が家や学校で飼ったことがある生き物」を共有する。その上で、「サン＝サーンスさんは、動物の様子や鳴き声を音楽で表すために旋律や音楽の仕組みをどのように工夫して音楽をつくったのだろう。」という問いから始めることで、先哲との対話をするという意識をもつことができるようにする。その上で、「組曲『動物の謝肉祭』から動物の動きや鳴き声を手掛かりにして数曲を聴き比べながら、旋律の特徴や反復と曲想との関わりについて考える。第2時では、「白鳥」「堂々たるライオンの行進」の旋律の特徴を比較聴取し、タブレットを活用して友達と考えを交流する。更に第3・4時では、「白鳥」の旋律と伴奏の関わりや同形の旋律の反復進行を手掛かりに曲の構造を捉

えながら聴く活動を設定する。このような学習活動を通して、曲想やその変化と旋律の特徴や反復との関わりを手掛かりとして、楽曲全体のよさを味わうことができると考え、本題材を設定した。

6 教材について

『動物の謝肉祭』（サン＝サーンス作曲）より

「白鳥」 4分の6拍子 楽器編成：チェロ ピアノⅠⅡ

「堂々たるライオンの行進」 4分の4拍子 楽器編成：ピアノⅠⅡ 弦楽五部

「めんどりとおんどり」 4分の4拍子 楽器編成：クラリネット ピアノⅠⅡ バイオリンⅠⅡ ビオラ

「象」 8分の3拍子 楽器編成：ピアノⅠⅡ コントラバス

「カンガルー」 4分の4拍子と4分の3拍子 楽器編成：ピアノⅠⅡ

「動物の謝肉祭」は、全14曲で構成された組曲である。楽器編成は、ピアノⅠⅡ、バイオリンⅠⅡ、ビオラ、チェロ、コントラバス、フルート（ピッコロ）、クラリネット、アルモニカ（グラスハーモニカ）、シロフォンという、2台のピアノを含む室内楽の編成である。なお、アルモニカは、グロッケンシュピールやチェレスタで代用することが多い。

本題材の主教材として設定した「白鳥」は、チェロのなめらかな旋律と分散和音が繰り返されるピアノの伴奏で構成されている。チェロの旋律は、ト長調から、ロ短調、ト長調、ヘ長調、イ短調、イ長調、ト長調、イ短調と転調し、後半部分は同形の旋律の反復進行でつくられており、ここから白鳥が泳いでいる様子を想像するための手掛かりとすることができる。また、ピアノの伴奏についても、白鳥が泳いでいる湖の様子を感じるなど、実際の様子を想像しながら考えることが可能である。

比較聴取の教材として設定した「堂々たるライオンの行進」は、ピアノ（ⅠⅡ）と弦楽器で構成されている。始めに弦楽器が威厳に満ちた「ライオンの王」の旋律を演奏する。この旋律はドリア旋法の音で構成され、異国情緒が漂う。次にピアノと弦楽器が半音階と和音を交代で演奏し、最後にライオンの主題が戻って、ライオンのうなり声のような半音階と和音の一撃で終わる。

第1時に学習の導入として比較聴取する教材の「めんどりとおんどり」「象」「カンガルー」は、旋律の特徴から鳴き声や歩き方などを児童が想像しやすく、サン＝サーンスが風刺で作曲していない楽曲を選択している。

『とんび』（葛原しげる作詞 梁田貞作曲）

4分の4拍子 ハ長調。ヨナ抜き音階の特徴を生かした順次進行の旋律と跳躍進行によるフレーズと反復になっている跳躍進行による旋律のフレーズとで構成されている。また、歌詞の内容と旋律の上行・下行が合っているため、旋律の特徴を手掛かりに、とんびが飛んでいる様子を想像しながらどのように歌うとよいか思いや意図をもつことが可能な楽曲である。

7 題材の指導計画と評価計画(全4時間)

| 時 | 目標 | ○ 学習内容 ・ 学習活動 | 評価規準(評価方法) | | |
|-------------|---|--|----------------------------|------------------------------------|----------------------|
| | | | 知・技 | 思 | 態 |
| 第1時 | 旋律の特徴や反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考える。 | ○旋律の知覚・感受 ・「とんび」を聴く。 ・主旋律を歌う。 ・旋律の特徴と歌詞の内容との間わりについて考える。 ・動物の鳴き声や様子を思い浮かべながら、旋律の特徴を手掛かりに「おんどりとめんどり」「カンガルー」「象」を聴く。 ・作曲家が動物を表すためにどのような工夫をしているのかを、旋律の特徴を手掛かりに考える。 | | 思① (表現) (記述) (発言) (聴取) | 態① (行動観察) (記述) |
| 第2時 (本時) | 曲想及びその変化と旋律の特徴や反復との間わりについて気付く。 | ○旋律の特徴の比較聴取 ・体を動かしながら「堂々たるライオンの行進」と「白鳥」を聴き、2曲が表している動物の様子を想像する。 ・「堂々たるライオンの行進」と「白鳥」の主旋律の部分聴く。 ・旋律の特徴について知覚・感受したことを、全体で確認する。 ・「堂々たるライオンの行進」と比べながら、「白鳥」の旋律の特徴についてグループで話し合う。 ○反復の知覚・感受 ・旋律の反復に気を付けて、もう一度「白鳥」を聴く。 | 知① (表現) (発言) (記述) | | 態① (行動観察) (記述) |
| 第3時 | 旋律の特徴や反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考えると、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。 | ○旋律と反復との間わりの知覚・感受 ・「白鳥」を中心にグループで聴く。 ・同じリズムで反復されている旋律がどのように移り変わっていくのかについて考える。 | | 思② (記述) (発言) | 態① (行動観察) (記述) |
| 第4時 | 旋律の特徴や反復と曲想との間わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組む。 | ○旋律の特徴や反復と曲想との間わり ・「動物の謝肉祭」を作曲した時のサン＝サーンスの思いや意図について考えながら、担任に向けた「白鳥」の紹介文を書く。 | | | 態① (行動観察) (記述) |

8 本時(全4時間中の第2時)

(1) 本時の目標
曲想及びその変化と旋律の特徴や反復との関わりについて気付く。

(2) 本時の展開

| 時間 | ○学習内容 ・学習活動 | ☆ 指導上の留意点 配慮事項 | 評価規準(評価方法) |
|-----------|--|---|--|
| 導入 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ・「とんび」を歌う。 <p>○本時のめあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>せんりつの特ちょうを感じ取りながらきこう。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ☆旋律の特徴や反復を生かした歌い方を工夫するよう助言する。 | |
| 展開 30分 | <p>○旋律の特徴の比較聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしながら「堂々たるライオンの行進」と「白鳥」を聴き、2曲が表している動物の様子を想像する。 ・「堂々たるライオンの行進」と「白鳥」の主旋律の部分聴く。 ・旋律の特徴について知覚・感受したことを、全体で確認する。 <p>○反復の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の反復に気を付けて、もう一度「白鳥」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・聴き取ったことや感じ取ったことをグループで話し合う。 ・気付いたことや感じたことを、学習カードにまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆聴き比べるヒントとして、「ライオン」と「白鳥」のイラストを掲示しておく。 ☆旋律の特徴を捉えることができるように、旋律を口ずさんだり図形楽譜を空間に描いたりする活動を設定する。 ☆「白鳥」の旋律の特徴を踏まえて後半部分の同形の旋律の反復進行に気付くことができるように、旋律のリズムに気を付けて聴くことを確認する。 ☆旋律の反復を確認するために、タブレットで音源を聴いてもよいこととする。 | <p>態①旋律の特徴や反復と曲想との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (行動観察、記述)</p> <p>知①曲想及びその変化と旋律の特徴や反復との関わりについて気付いている。 (記述、発言)</p> |
| まとめ 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをする。 | | |